

慈雲

6号

2008/03

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zui renji@nifty.com

SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

巍 光
巍 顔

【表紙の言葉】

私は時々人から「お坊さんらしい顔だ」といわれるととてもうれしいです。僧侶ですから当たり前前のことのようにですがなかなかそうはいきません。自分でいい顔をしていると思う時はえてしてたいしたことないものです。自分の顔はお粗末なものですが、「いい顔」の人に出会うことがあるとおもわずこちらの姿勢がただされるような気がします。

【「嘆仏偈」に学ぶ】

『仏説無量寿經』の中に「嘆仏偈」

という偈文げもんがあります。偈文とは歌のことであり、どうしても謳わずにおれないほどの感動を表す時には叙述ではなく歌の形をとるでしょう。私たちもうれしいことがあったらおもわず口笛を吹いたりしますがちょうどそのような感じですよ。

光顔巍巍 威神無極

如是焰明 無与等者

日月摩尼 珠光焰耀

皆悉隱蔽 猶若聚墨

これは阿弥陀仏がまだ修行時代の法蔵菩薩であった時に師匠の世自在王仏を讃えているところですよ。「お顔やお姿がとても輝いておられ、その高い様子は極まりがありません。その光の明るさは等しいものがありません。日の光や月の光、また摩尼や珠光などのどんなすばらしい宝石の輝き

もみんなその前では隠れてしまつてまるで真つ黒な墨のようですよ。」というような意味ですよ。

私は23、4歳の頃に初めてこの文章を読んだとき、とてもおもしろい表現だと思いました。どれほどお師匠さまのお顔やお姿が光り輝いていたとしても太陽の光や宝石でさえも墨のように真つ黒に感じられるくらいのものだという言い方に驚いたんですよ。

仏様の説法は口でするだけではなく、身体全体でするものだという事です。その人が内面に大きいものを持つていければいるほどそれはお顔やお姿に現われるのです。きつと親鸞聖人がはじめて法然上人に遇われた時このような感じを持たれたのではないですよか。

私も今は亡き高原覚正先生に初めてお会いした時、「この偈文のようはつきりした言葉は浮かびませんでしたが、「この人で間違いない、探して

いた人に出会えた」と思いました。それはまさしく理屈を超えたものです。人間は眞実の道を求め続ける存在ですが、それにはまず自分に先立つて眞実の道を歩いている人との出会いから始まります。

そして眞実に会えたことはとりもなおさず眞実でないものを知ったことなのです。

聖徳太子の言葉に「世間虚仮、

ゆいぶつせしん

唯仏是真」がありますが、ただ仏のみ眞実であり世の中の事どもは偽りであるという意味ですよ。

「嘆仏偈」では仏さまの光輝くお顔と対比して日の光や宝石など物質的なものを真つ黒な墨にたとえることで表しているのです。私たちは財、名声、健康など目に見える事物を追いかけています。それを眞実だと思つていけるのです。ここで今一度考える時期が来ているのではないですよか。

【おすす払い奉仕団について】

高島 結子

私は昨年十二月十八日～二十日まで、二泊三日で東本願寺の同朋会館というところに泊まり、おすす払い奉仕団に参加してきました。

初めは、知らない人達ばかりの中で、うまくやっていけるのかどうか不安でしたが、行ってみると、私の祖母や両親の年代の方が多く、とても可愛がって頂き、そんな不安は無くなりました。参加しようと思った理由は、十月に祖母が亡くなり、十一月に個人的にもシヨックなことが立て続けに起こり、精神的に参っていたからです。

そんな時、住職から、おすす払いの事を聞き、「私の心中のすすも、これで払えたらいいなあ。」と思ったからです。一日目は、オリエンテーション、喫茶室での交流会、夜は、おはなしと話し合いがありました。

二日目は、清掃奉仕や、阿弥陀堂での紙帳吊りを眺めたり、瓦の修復現場の視察へ行ったり、皆で散歩をしたり、とてもゆったりとした時間を過ごせました。

夜は、おはなしと話し合いがありました。三日目は、いよいよおすす払いです。阿弥陀堂の畳を、先が丸くなった竹で、皆でバチバチと叩きました。

そうすると埃が出て来て、それをうちわであおいで外へ出す人と、ほうきで集める人、その後、畳を水ぶきした上で空ぶきする人とに分担して、やりました。

私は、竹でバチバチ叩くのと、その後の空ぶきをやりました。

何だかとてもスッキリして、私の心の中の嫌な、すすも、とれた様な気がしました。

今回参加して、沢山の仲間ができた

ことは非常に良かったなと思います。

こんな素敵な行事を勧めて下さった住職に感謝したいと思います。



お願い

平成二十年度の年会費五千円よろしくお納めください。

皆様が運営する皆様のお寺を目指し、またお寺を通じて広く社会に貢献したいと存じます。

振り替え用紙を同封致しますが、既にお納め下さってる方はご容赦下さい。

【お知らせ】

お磨きのご案内

三月 十八日(火) 午前九時より
五月二十三日(金) 午前八時半より
八月 一日(金) 午前八時半より
本堂の仏具のお磨きをいたします。



彼岸のご案内

三月 二十日(祝) 午後二時より
お彼岸のお勤めをいたします。

法話 住職

講題 「白骨の御文」

慈雲会総会のご案内

三月 二十日(祝) 彼岸法話終了後
議題

平成十九年度の事業報告
平成十九年度決算
平成二十年度の予算
その他

【雑華雲】

今月号は顔についていろいろと書いたのでそれに関して思いついたことを述べてみます。

東本願寺の職員がグループで食事に行くとき「何の集まりですか」とよく聞かれます。同じ職場の同僚といっても信じてもらえないのです。なぜならみんなバラバラで同じような感じの人がいないからだそうです。全員東本願寺の職員なのですが、学校の先生のような人、商人のように見える人、たまにお坊さんに見えなくもない人などです。しかし私はこのように言われることは真宗門徒として嬉しいことだと思っています。なぜなら親鸞聖人の教えは、みんなが同じ思考をするのではなく、同じ行動を取れと教えるのでもないからです。各人各人がそれぞれの業(ごう)を持ちながらそれを何ひとつ否定することなくただ光に照らされ護られているのみだからです。

【編集後記】

ついこの間まで雪がちらついています。たが、日中の日差しもだいぶ柔らかくなつてまいりました。

春になると草木が芽吹き暖かくなってきます。わたしは寒さに弱いので冬が終わり暖かくなるのはうれしいです。しかし、勝手なものでも暖かくなるのはよいけれど雑草が生えてくるのはちょっとか……。なかなか素直に喜べません。

大谷大学の児童教化研究会のクラブでは大事な心構えを壁に貼ってありました。

いつまでも純真なれ
いつまでも未熟なれ
いつまでも持続せよ

寺での月一回の例会、春秋のお彼岸、お盆、お磨き、報恩講、慈雲会役員会、さまざまな行事を一緒にさせていたただくなかで、「門徒のみなさまに教えられることばかりです。

未熟な私ですが、今年もどうぞよろしく
お願いいたします。

坊 守